

第8回滋賀県首長会議テーマ一覧

提案団体	整理番号、テーマ名およびテーマの趣旨（概要）
①東京日本橋新拠点へのオール滋賀での取り組みについて	
竜王町	<p>本年10月に東京日本橋にオープンする滋賀の新拠点は、東京駅から徒歩圏内、道路の起点でもある日本橋という意義深い立地条件で、その有効活用については県内各市町共通の願いである。</p> <p>1階では滋賀の特産品販売、地酒バー、観光案内、実演販売・企画催事コーナーを、2階は近江牛など滋賀の食材が味わえる和食ダイニングを、屋上ではテラスでの季節イベントを予定しているとのことだが、滋賀県が誇る「近江牛」をはじめ、「近江米」や「新鮮野菜」、「歴史・文化」など魅力的な素材はふんだんにあるにも関わらず、首都圏での知名度が上がらない現実がある。</p> <p>これらの素材をいかに見せて(魅せて)いくかが、この拠点の肝となるため、オール滋賀での取り組みについて、議論したい。</p>
②小学校の英語教科化について	
米原市	<p>平成28年12月21日に行われた中央教育審議会(中教審)において、平成32年度からの新学習指導要領の答申が、中教審から文部科学省に出された。</p> <p>今回の答申では、小学校学習指導要領において、グローバル化の急速な進展に伴う国際共通語としての「英語によるコミュニケーション能力の向上」をポイントとし、英語は生涯にわたるさまざまな場面で必要とされることが想定されるなかで、今まで以上の充実が求められている。</p> <p>具体的な内容として、中学年(3, 4年生)では、従来どおり「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機づけを高めることを目的とする。小学校高学年(5, 6年)では、「読むこと」「書くこと」の領域を扱う言語活動を通じ、より系統性をもたせた教科型の指導を行うことになる。この英語の教科化に伴う時数を確保するために、短時間学習等の活用などの考え方が示され、年間70単位時間における一定の短学習時間のあり方を各学校で工夫し、地域や各学校の実情に応じた幅のある弾力的な授業時間の設定や時間割編成が求められている。そのため、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成30年度からの小学校英語の先行実施に向けた準備をする必要がある。</p> <p>本市においては、平成29年度から市内小学校9校のうち、5校で教育課程特例校として文部科学省から許可を得て、独自の教育課程を編成して英語教育の充実を図っていく。この取組状況をしっかりと検証して、さらに深めていく予定である。また、県教育委員会においても、小学校パイオニアプロジェクトを立ち上げ、小学校英語専科指導加配教員を各市町に1人ずつ配置される。</p> <p>以上のことから、小学校の英語教科化に向けて、各市町の取組について情報共有を図るとともに、県としての方向性を含めた意見交換がしたい。</p>
③「びわ湖の日」について	
滋賀県	<p>びわ湖の日は、昭和56年、「琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」の施行1周年を記念して、7月1日をびわ湖の日と定め、その後、平成8年7月に施行された「環境基本条例」において、県民および事業者の間に広く琵琶湖をはじめとする地域の環境が健全で質の高いものとして確保されることについての認識と理解を深めるとともに、それに関する活動への参加意欲を高める日として明文化したところ。</p> <p>平成27年9月に琵琶湖保全再生法が公布・施行され、琵琶湖は国民的資産と位置づけられたところ。県としては、この琵琶湖を健全で恵み豊かな湖として保全・再生を図っていくため、びわ湖の日を休日とすることで、琵琶湖とのつながりを深め、びわ湖の日の取組をもう一段高めていく契機としていきたいと考えている。</p> <p>びわ湖の日を休日とすることに向けた検討を進めるにあたり、そのねらい等について県の考えを説明するとともに、意見交換を行い、今後の検討に活かしていきたい。</p> <p>併せて、現在、びわ湖の日を中心に県内外で、「琵琶湖をきれいにしよう」「豊かな琵琶湖を取り戻そう」「琵琶湖にもっと関わろう」の3つの呼びかけにより取組を推進しているところで、引き続き、民間団体とも連携・協力し事業を展開していく予定である。</p> <p>市町をはじめ多様な主体と連携しながらびわ湖の日の取組の推進を図っていくため、取組の現状や方向性等について情報共有を行いたい。</p>